

をどうするか

憂国の 激論！

山本
雄二郎

経済評論家



日本の財政は平時として世界的に最悪な状態にあるのに一般に危機感が乏しいことこそ「日本の危機」である。この状態こそ国の衰退を物語るのではないか、その背景にあるものは、そしてどうしなければならぬのか――、

自民党副幹事長（前財務副大臣）村上誠一郎、
経済評論家・山本雄二郎の両氏が国の前途を憂う
立場で激論を交わした。

「皆がプールサイダー」

山本 財政の現状をどうみますか。

村上 二十年前に国・地方の借金が一三四兆円だったのが八年前に三六八兆円、今現在で約七〇〇兆円と幾何級数的に激増しました。国の予算規模は、八〇兆円以上なのに

十年も経たないうちに国・地方の借金が一〇〇〇兆円を超えます。

山本 橋本内閣で財政再建に乗り出そうとしたとたん、金融危機が表面化、小渕・森内閣が猛烈な財政支出をして一気に財政が悪化しました。

村上 表に出ない隠れ借金を入れると実質的な赤字は一〇〇〇兆円近いと思

税収は五〇兆円も集まらず、本年度は二兆八〇〇億円の歳入欠陥になりそうだ。あと

これからの日本



財政赤字 1000兆円 を目前に

村上
誠一郎

衆議院議員

ます。国民の金融資産は一四〇〇兆円といいますが、住宅ローンなどを差し引き、現時点で、ほぼ国の借金とイコールではないか。

山本 平時では最悪で、日露戦争後と第二次大戦後に迫っています。それでも一般の認識は「それでどうなの」と冷やかか、補正予算騒動では、デフレ対策と称して公共事業だ、減税だと五兆円も国債を追加発行します。

村上 そうですね。

山本 GDP比借金は昭和十七年のミッドウエー海戦時並み、日露戦争でも末期に国債は急増します。投げ遣り状態ですが、現在も同じような空気を感じます。

村上 心配なのは政策優先順位と人事です。確かに郵政、道路公団の民営化、北朝鮮拉

致問題は重要ですが、いま最優先に取り組む問題なのか。それに時間をとり過ぎてメインになすべきことが遅れている。デフレ対策にしても腕力のある人材が必要なのに学者の竹中さんに経済・金融政策を丸投げした。竹中さんは金融に自信がないから木村剛さんに丸投げです（笑い）。

山本 劇場風ですね。

村上 言いつ放し、みんなプールで金槌な人ほど他人の泳ぎ方をコメントしたがる（プールサイダー）のです。責任を取らない政治家になったのが問題です。内容を熟知した腕力のある人を抜擢し、適材適所に配置することが必要です。

山本 財政の景気に対する機能は呼ぶ水効果、民間活力が出るまでのつなぎなのに、十年以上財政支出を増やし続けても民間が出てきません。それでも懲りずの財政支出は正気でしょうか。

村上 日本経済を襲う津波は、（一）経済のポードレス化で、人・物・金・犯罪までが国境を越えて動きだした。その結

果、中国、ロシアの十億人以上の人が労働力として資本主義市場に参入した。

(一)さらに、バブル崩壊で金融、ゼネコンが責任回避と不良債権処理を先送りし、信用収縮と資産デフレが止まらなくなった。(二)建設土木等の生産性の低い部門に資金を流し続けたために、日本経済全体の効率が低下し、十年以上財政を支出し続けても構造改革に資することができなかった。

山本 それではどうすれば――。

村上 構造改革は、将来性のある分野に資本と人材を移行するのが基本です。中国は、中関村をハイテク村にして高速道路を開通させ三万人の博士号をもった人を集めました。日本は、経済大国、技術大国なのにそれができない。年金・医療などの将来の不安から個人消費が低迷し、不良債権を抱える金融機関のため超低金利政策をとり、預金者の懐を軽くする。そんな悪条件が二重、三重に重なっています。「リスの呪い」と言っていますが、農作業の時にリスが

せつせと貯めこみ過ぎて逆に木の実を腐らせ、リスが餓死していくように、一四〇兆円の個人資産がタンス預金になつてうまく回らない。

山本 政策的に余地があると。

やまもと ゆうじろう



昭和5年8月30日生まれ、鳥取県出身。28年早稲田大学政治経済学部卒、産業経済新聞(サンケイ新聞)東京本社入社。経済部長、統合経済取材本部長、コラムニストを歴任。56~63年大蔵省・財政制度審議会委員。現在、「虎の門政策研究会」理事、西武文理大学客員教授。

マリーバランス(歳出から国債費、歳入から国債収入を除いた基礎的収支)を均衡させる目標を〇五年度に延期しました。しかしそれでもムリだと思います。

村上 かなりの努力が必要ですね。国民にはもはや次の世代への付回しは不可能だと説明して消費税を含む増税に納得してもらうしかありません。家計で言えば、サラ金地獄ですから、医療・年金を切れないのなら歳入の確保は不可避です。

山本 とところが先行減税の中期的中立論さえ反発が強い。増税を言うだけで消費が落ち込むといえます。

村上 小選挙区の影響で政治家は八方美人にならざるをえないのです。少数差で当落が決まる場合、社会保障や公共事業の削減、地方財政の健全化を言うことは難しい。本音を言うより保身のために汲々とせざるをえない場合が多い。小泉首相が増税なしと言い切ったために、政策の幅が制約されてしまったのです。

村上 財政、金融、各産業とあらゆる政策のベクトルを集中させる必要があります。それが、不良債権処理における資本注入や経済活性化の税対策、財政出動等を一点に集中させる司令塔がないのです。

山本 財政に戻って〇三年度にプライ

「大事なものはハングリー精神と若手の登用」

山本 敗戦時に国民の生命を守るべき関東軍が、開拓者や一般市民を押し放り出して我先と帰国した。若者に回す付けが増えるのに平気で財政赤字を増やす現役政治家は関東軍並みですよ。

村上 その表現はきついが、一面の真理です。ローマを滅ぼしたのは外敵ではなく政治家が「パン」と「サーカス」で市民の関心と支持を買おうとしたからです。その状態が、今の日本に通じますが、さらに悪いのは電波メディアがお笑い番組とグルメ番組ばかりやっていて将来への啓蒙がない。国債三〇兆円枠を守っても四百十数兆円の累積赤字国債は消えない。借替分を含め年間一五〇兆円もの国債を消化せざるを得ないという事実をメディアも報せてほしいのです。

山本 ギボンがローマ帝国衰亡史を書

き終えた時、アダム・スミスは国富論を書いていた。このことを挙げ、財政学者の神野直彦・東大教授は、彼らは歴史の大転換期を肌で感じていたと話します。今まさに時代の転換期であり過去の延長では読み間違えと指摘します。

村上 司馬遼太郎の小説のように日本



むらかみ せい いちろう

昭和27年5月11日生まれ、愛媛県出身。東京大学法学部卒。61年衆議院議員選挙初当選以来、5期連続当選。平成4年大蔵政務次官、9年衆議院大蔵常任委員長、12年大蔵総括政務次官、13年財務副大臣。現在、自民党副幹事長（5期目）、自民党愛媛県連会長（2回目）。

人は明治維新から太平洋戦争、そして今米ソ冷戦構造が終焉し、第三の津波の中にいます。日清、日露で勝ったから、陸海軍はそのパターンのままで太平洋戦争に突入し負けた。戦後経済は復興したが、

金融も企業も戦後パターンのままでグローバル化の波に乗れなかった。冷戦構造が終焉し、世界市場のカベがなくなるステージが開くこの時期に、アダム・スミスのように先を読めるかどうか、重要な局面なのです。

山本 第二次大戦の財政赤字は旧制中学生の私は体験で厳しさを知っています。日露戦争後の状況は勝っても当てにした賠償金が取れず外債の返済で大変な苦しみを味わった。日比谷に集まった貧民が暴動を起こし政治も大混乱、左翼を弾圧し大逆事件は捏造です。石川啄木が「時代閉塞」を憂い、明治天皇が戊辰証書で国民に沈静を働きかけました。財政規律喪失の付けは怖い。

村上 そうでした。ただ、今は終戦直後の瓦礫の山ではなく生産基盤は残っており、国民の資産もあります。それらを体力のあるうちに有効に使うことが大事なのです。

山本 あるからダメな面もあります。

村上 明治維新も日露戦争も、太平洋戦争は負けたけれども、国民の精神は腐っていなかった。日本民族の妻さは江戸時代も寺子屋と藩校があり、終戦直後も旧制高校や高等師範で青年の矜持を保持させるシステムがあった。

山本 それと腹が減っていたこと。飽食で豊かな物質生活では根性が座らない。

村上 たしかにハングリー精神も大事です。それと重要なのは、明治維新も太平洋戦争終了後も若手の人材を登用したことです。明治維新は、薩長の下級若手武士が活躍し、戦後は、パージで経済界のトップに四十代が出てきたのです。為政者は、成熟期に入った国の形を示し、自分たちの生まれた国に誇りをもって生きられるようにしなければなりません。

山本 人は生まれ育った所と接した人々に愛着を持つのが普通であり、それが愛国心の基本です。ただ政治や行政が上から押しつけるものではない。

村上 一方、高度成長期に人口の都市集中で地方の過疎化、地域崩壊が進みま

した。インターネットで地域の情報格差がない今の時代、どこにいても仕事ができるのだから地域社会に根ざしながら生きていけるようにしたいと思います。

山本 今の日本社会は「ゆで蛙」状態。迫る危機に気付かず既得権にしがみ付いてやがて破滅するとしたら大変です。

村上 長い目でみると民族は、興隆と衰亡を繰り返す。結局、生き残ったのがアングロサクソンです。人間を遺伝子を運ぶ乗り物とみれば、国家対国家は遺伝子の戦いではないか（笑い）と思います。そうみればスパルタで教育しなければなりません。学歴はいらませんが、学力は必要です。足元に赤字国債四〇〇兆円を抱えている現状は、地獄の釜が口を開けているのに気付かず宴会をしているようではないか。

「日本人の甘えの構造」

山本 財政赤字は二つの弊害を生んだと思います。一つは政治家の一部が統治

側の利権を悪用し、国民の資産である財政にたかった。その証拠に四〇兆円の借金を抱える道路公団にまだ高速道路を造らせようとしているのか、国民の目にカネと票がちらつきます。

村上 その説は全面的に賛成できませんが、一理はある。ご理解願いたいのは、都市部はともかくとして地元でいい先生と言われるには、冠婚葬祭や地元の陳情を実現することなんです。これは非常に苦勞することです。天下国家を論じても何の面倒もみてくれないといわれると当選が難しい。明日のメシより今晚のメシが大事なのです。

山本 もう一つは経済界に財政頼りの悪弊を定着させたことです。政府や政治家に頼めば何でもやってくれると依存心、依頼心が強まり福沢諭吉の独立自尊の精神が欠けてしまった。金融界がバブル崩壊後十年を超えても不良債権処理ができない。しかも高給を隠し続け、金融再生プランが出てやっと賃下げになった状態です。産業界で銀行だけ貸金やポーンナス

水準を公表しないのもおかしい。税率の引き下げにしても納得しかねます。大企業が存在が容認されるのは納税と雇用機会の提供だとすれば、雇用は減らし税金もまけるはムシがよすぎる。

村上 要するに日本人の「甘えの構造」があるのです。昔から、上に立つ人は下の面倒を見るという習慣があり、それが重なると弊害になる場合もあります。山一、北拓問題で衆院大蔵委員会ですべて銀頭取を参考人招致した時はすべて責任の先送りと国へのおんぶでした。政官財すべてに「甘えの構造」で公の精神を失ったことがあると思います。政治家がエリを正さないといけないのは当然ですが、一票取るのがどんなに大変で十票失うのはどんなに容易か（笑い）ということもご理解いただきたいのです。

山本 村上さんのような清潔で政策に熱心な政治家を出してくる愛媛県のように立派な有権者もいるわけです（笑い）。選挙民もバカではありません。

村上 私は地元も東京も理解の深い

方々に恵まれていることに感謝しております。ただ、財政再建には、「消費税アップ」しかないこと、それと「教育の建て直し」が緊急課題だと言い続けています。それを言って聞き直るしかないと考えています。

山本 司馬遼太郎の『この国のかたち』に明治初期の二大汚職の話があります。のちに明治の元勳といわれる長州閥の山県有朋、井上馨が張本人ですがウヤムヤにされる。これに怒った西郷隆盛と江頭新平は、反乱を起こし死ぬ。潔癖で知られる西郷は「これなら（倒幕した）徳川さんにあいすまぬ」といった。司馬は「西郷は史上稀なほどの正義感が有りすぎた」と書きましたが、近代日本の利権政治はここから始まったといえる。

村上 私のような貧しい政治家からいえば、最終的には、政治家の「志」と「使命感」だと思います。私は政治家になっただけで、思っていたイメージと現実の乖離に驚いたのは事実です。ただ、政治も経済も進歩したり、退歩したりを繰

り返して進んでいくもので、理想どおり一直線でみることはできません。

山本 ただ西郷隆盛の『南州遺訓』に、政治家たるもの国民よりよい生活をしてはならない、自分より有能な人材がいたら直ちに身を引き交替せよ、と戒めています。これこそ今の政治家が拳々服膺してほしい言葉です。

村上 その通りです。この背広は二万九八〇〇円ですよ（笑い）。ただ、問題は志とビジョンであり政治家の命は政策です。国民が真つ当に働けば、それなりの生活ができることをキチンと担保するのが政治だと思います。ところがバブル以降、株や安易な土地投機に走るような風潮になりました。ただ明治維新は命懸けの革命の中で、中にはその反動で私権政治家や政商になった者もいます。

山本 しかし政治家は志を高くもってもらいたい。それは今の問題です。

村上 その解決策が教育です。かつて京都市民が、次代を背負う旧制三高生を大事にしたように国民や市民も志を持つ

題です」(村上)



た将来ある人材を育てなければなりません。私の選挙区でも二十年くらい前には、いい意味での旦那衆がいて物心両面で応援してくれました。今はそのような人はだんだんと少なくなってきました。

「レーガノミックスの大罪」

山本 京大の佐伯啓思教授が、「レーガノミックス(レーガン米大統領の経済改革)の欺瞞」と題して、「表面的な繁栄に見せ掛けて利己心を野放しにし中間層の没落による人々の経済に対する確信を失わせた」と書いています。安定した

静かな生活からカネと富に振り回される生活にしたというのです。

村上 そう思います。欧米狩猟民族と日本の農耕民族の違いがあります。強烈なアングロサクソンの遺伝子は世界中の富を自分のところに集めてもいいと思っ

ているかのようなです。G7の七か国で世界の富の七割以上を占め、残りを一九〇の国と地域で分け合っています。まるで戦前の日本における地主と小作農の関係です。これでは購買力が高まらず供給過剰でデフレが進行するわけです。地球という宇宙船の適正人口規模があるはずで、その中で数か国でシェアを独占することは、許されない。貧富格差の是正は、今世紀の地球上の大問題です。

山本 日本の中曽根民活にも同じ問題があります。経済解放は必ず弱肉強食を招き富の偏在を拡大する。バブルがそれでした。良心の歯止めが失われる。

村上 規制が全て悪いのではない。当時の米国の狙いは日本のカネの導入で、内需拡大ということで流動性を過大に高

めた日本がバブルにはまったのです。米国の怖いところは、企業会計にしても自分の基準を押しつけ、グローバルスタンダードという大義名分でアメリカンスタンダードを押し付けてきたのです。

山本 市場経済自体が良いのではなく、良心のある人が運営してこそ市場が正しく機能するのですね。

村上 アジアの通貨危機のときタイも韓国もヘッジファンドの食い物にされた。途上国を守るルールづくりも必要です。

山本 トービン教授が為替投機に課税せよといいました。それと本州・四国に三本橋を架けて大赤字を出しているよう



るのは常軌を逸している」(山本)

「貧富格差の是正は今世紀の地球上の大問



に、公共事業の需要見積もりの問題があります。役人と政治家の合作ですよ。

村上 確かに甘くみたわけですが、バブル時代で土地神話や経済大国神話が信じられていた事情もあります。過熱状態が常態と錯覚した。高速道路の赤字は本来国費でやるべきものを財投でやり、チェック機能がなかった問題がある。新幹線と高速道路は国民のユメだったので。

山本 四〇兆円の借金を抱える道路公団にまだ道路を造らせるのは常軌を逸している。カルロス・ゴーン日産社長が立派なのは、企業再建にあたり最悪の条件

を設定し守りぬいたことです。具体的には売り上げがマイナスでも利益を上げる企業体質を目指したのです。

村上 ただ日本の経営には従業員、地域関係など浪花節的人間関係という制約があります。政治もゴーン社長のようによろこみません。日本人社会のねばっこい人間関係があり、そこは国民にも理解願いたいのです。ブレア英国首相は六十五歳までの人工透析は国が面倒をみるが、それ以上は自己責任という哲学です。次世代の教育、技能教育にはどんどんカネを使うと。

山本 といつて赤字道路を造り続けてよいことになりません。多くの国民は既に理解しています。

村上 だが消費税導入の時、私は実施論を述べて落選しそうになりました。

山本 財政抑制を唱える小泉首相が毎晩のように高級料亭に出掛けるのを市民は見えています。かつて池田首相は芸者の待る席には出ず、昼食の会合はカレーラ



「40兆円の借金を抱えながらまだ道路を作

イスで通しました。

村上 小泉さんはよく熟慮しないで最初に結論をポンと言うのが良くないのではないでしょうか。構造改革を押し進めて落ち着くまでには、二、三年かかるのにペイオフを延期しないと試みて、財政再建のためには消費税のアップは回避なのに、増税しないと試みて自分の手足を縛ってしまうのです。

山本 財政最大のネックである年金問題ですが、保険料を凍結し、その範囲で給付を決めるスウェーデン方式が目まくらしています。この方式なら若者も展望が持て安心しますね。

村上 給付は抑えるが、年金会計は維持され給付そのものは将来も受けられる方法ですね。米国が財政赤字から脱却してきたのは、冷戦終決にともなう平和の配当で軍事費をカットしたのと、医療年金に自己責任制を貫いたことです。公的保険で対応する範囲を限定しています。日本の「出来高払い制」では、高額医療費の財政圧迫が強まるばかりです。

山本 年金受給者もこのままでは済まない段階です。次世代が困るのにオレは知らないでは済みません。

村上 掛け金が少ないのに世界最高の年金をもらっている。当時は可能と考えたとしても経済状況が変わってきた。制度設計の前提が違うのです。

山本 「若者が社会的弱者に転落する」との本が出ましたが、就職難で年金の見直しもない状況です。その背景に中高年の既得権しみが付きがある。ただ年金を削ると財産権侵害の問題があり介護保険料のように課税するしかない。

村上 医療、介護、年金の給付を一括

してどうバランスをとるか考えないといけません。経済的にゆとりがあり、医療費等をもっと負担していいという高齢者も少なくない。給付の枠を決め、負担削減の両面の対応が避けられません。

「政治家を選ぶ国民も一考を」

山本 さて今後の日本をどう展望するか、政治家がもつと経済や生活をよくすると考えるのはムリからぬとしても私はそうならないと思います。新年が賃下げ時代になるように、自分、日本は現状維持がいい方で数量的には衰退が避けられない。デフレ克服といつても世界的供給過剰の中で日本の高物価体質が維持できない。その是正過程がデフレとみるべきです。それでも効果のない財政支出で地獄への道を急ぐのか。最低五年くらいはデフレと共に生きる覚悟が必要でしょう。

村上 加工貿易立国、首都圏発展のメリットを地方に配分するなどの固定観念が問題です。一つは、商品が売れないといつても、欧米のロレックスやフェラーリ、グッチ、エルメス等は、高い技術が高く売る経営技術を持っている。欧米における地方の金融システムは日本の信金、信組よりはるかに規模は小さいが、的確な貸し出しを行い、地方経済の毛細血管として非常に有効な機能を果たしている。

日本としても、そのような経営技術と金融システムを地方活性化のためにもつと学ぶべきではないでしょうか。財政再建とデフレ対策の一石二鳥の政策として、例えば、消費税を三か月ごとに1%ずつアップさせ（三か月×一五回十五%）四五月で二〇%に上げる。（欧米の消費税は平均十七〜十八%）

山本 世界的な大転換期の中で、ITバブルが終わった米国経済にもその先の展望がない。好調な中国も人口大国が成長を続けるほど世界的に環境、資源、エネルギー問題を引き起こします。続くインドも同じです。世界人口が一〇〇億人にはなりえません。そう展望すれば今、

発想の大転換に迫られるのです。

村上 日本がどのような経済規模でどのように世界経済の中で「この国の姿」を描くのか。財政は社会保障、地方自治、公共事業を官から民へ、できれば外交、国防、警察以外は民に移行していくしかないと思います。その移行過程で民間経済を活性化すればいいのではないか。ただノーベル賞を二人も授賞したように日本の技術は優秀だから、技術革新を続ける企業は十分生き残れます。

山本 花王はイノベーションとコスト管理で二十二期連続利益最大です。

村上 次の世代の雇用の場をどうするか、そのインセンティブとして税、研究開発費を特化して財政運用するのです。むろん企業も独立自尊が基本です。

山本 ニッチ(隙間)産業が静かなブームです。独自の技術・技能を生かして地価と人件費の安い地方でシェアの極めて高い高収益経営をしています。欠かせない商品で大企業が真似のできないことが絶対条件です。ハイテクのベンチャーが

リスクが大きいのに対し、こちらはローテクでハイリターンです。愛媛県には生きた魚を水槽にいれてトラックで長距離輸送する技術があります。

村上 調子がいいと皆同じ分野に押し掛けて失敗する。小回りが大事です。国もそこに目を付けて引き出す努力が必要です。やはり財政、金融、教育を立て直し国力を回復させねばなりません。そのためには消費税を早い時期に二〇%くらいに上げないとなりません。

山本 それには一段の歳出削減が避けられない。防衛費だってロシアを抜いて世界二位です。何十人も拉致されて気付かない国にそんな軍事費があるのか。政治家も多すぎるし、財政大赤字にしてはカネがかかりすぎます。医師が多いと医療費が膨らむように政治家が多いと財政支出は増えるのです。

村上 私自身は反省するところはありますが、問題はあります。しかし、その政治家を選ぶのは国民ですから国民も考えて欲しい。国民は能力に応じた政府

しか持てないといわれます。拉致問題の解決は、最終的には経済援助ができる条件が整わない時にどうするかを考える必要があります。国民の生命、財産を守るために、強い国家の必要性は戦時中のユダヤ人の悲惨さが証明しています。国民が政治家を選ぶ条件は、地元を利益を引く張らず国全体を大所高所から考える政治家です。

山本 私が不思議に思うのは、ここまでできて公共事業を食い物にする悪徳政治家に対する政界の対応の甘さです。公共事業を受注する企業からの献金は禁止せよというと、鉛筆一本受注してもダメなら献金できる企業はなくなるとの理屈ではね返してしまう。

村上 私は公共事業の企業とは縁遠いから自信をもって言いますが、政治家が皆そうではありません。個人の資質、志の問題であり国民が判断する問題だと思います。これにはマスコミの責任も大きい。テレビの人気に乗って出てくる刺激的でエキセントリックな政治家やパ

フォーモンスだけの審議会委員がもつと悪いと思います。

山本 マスコミの衰退も事実です。ただイラクも北朝鮮もそれなりの正義があり善悪の判定は簡単にいきません。はっきりしているのは良心があるか、私利私欲でないかの問題でしょう。

村上 扇情的に働き掛け視聴率や発行部数を伸ばすことに汲々としている。儉約、篤実といった価値観が失われた。

山本 江戸時代の石田梅岩が商人道を説いたような人がいない。人心の退廃は時代の変わり目の現象ともいえます。米国の日系社会学者マイク・モチヅキ教授は日本人がものを買わなくなったのは時代の先取りであり、無駄遣いの過ぎる米国も見習うべきだといいました。

村上 たしかに米国が言うことがすべて正しいというマスコミは反省すべきでしょう。小選挙区制の政治家は選挙を通ることに気をとられ政策の勉強が足りないとはいえます。

山本 内閣が五つも潰れないと問題は

解決しませんよ。

村上 内閣の問題より、資質のある政治家をどのようにして選挙をクリアーして確保するかです。選挙は民意の反映結果です。政治的判断を必要とする案件をいたずらに審議会等に丸投げすることは、議会制民主主義の精神にてらしていかなものではないか。

「財政の実態を一人でも多くの人に」

山本 憲法の中核思想は個人の尊厳であり、個人の尊厳には自由と危険が裏表です。不安に耐えてこそ自由がある。

村上 自由を求めるなら自己規律と自己責任で、国家が何でもしてくれるだろうと思わない。権利を主張するなら納税義務等を果たしてほしい。

山本 しかし将来を悲観することはない。真の幸せは所得に比例しない。むしろ物的欲望から離れることで新しい人生が見えるかも知れないのです。

村上 政治家の狙いは国民生活の向上

安定、真面目に働けばそれ相応の収入と生活が保証される。人生は収入が多ければいいということではなく、自分の価値観に忠実に生きることが理想だと思います。

山本 津田塾大の高橋裕子教授（アメリカ社会史）から「米国の亭主革命」の話を聞きました。日本より男女共同参画で先行する米国で亭主が「大黒柱の座」を降りたのは日本も同じ方向です。違うのは米国の亭主は「家庭」を人生の中核に据え、女房が外で働くなら家事に専念し育児に励むというのです。だから日本や欧州で出生率が下がっても米国は二・三%と人口維持水準を超え今世紀中ごろには三億人になります。

村上 やはり日本は戦後拝金万能主義の風潮が災いしました。公共工事も必要性の薄い道路やハコモノを多く造ってしまいました。

山本 欧州ではスローライフの流れがあります。座るとすぐ食べられるファストフードの反省から、ゆっくり食事を楽

しもうとスローフードから始まり人生をゆっくりいこうとなりました。画一大量生産に乗らないとの考えです。産業革命を始めた欧州は今、いち早く人生を見直し「人間復活」に動きだしたわけです。

村上 先ほど申し上げた地方活性化のため経営技術の革新、地方金融を担う毛细血管としての金融改革、正に生まれ育ったところに誇りをもって生活し、住んでいける地方づくりがこれから必要だと思います。

山本 物質執着をやめてガマンが必要な時代です。

村上 知足（足るを知る）の経済学です。ただこうした発想はなかなか浸透しません。財政の実態をひとりでも多くの国民に可及的速やかに知ってもらわねばなりません。

財政、経済、教育を建て直し二十一世紀の世界の課題である人口の爆発、環境問題、貧富の格差問題、宗教、民族の違いによる地域紛争解決等に貢献できる国家を目指したいものです。

あとでひと言



国会の村上事務所には日本海海戦の連合艦隊旗艦「三笠」が掲げた乙旗が架かっていた。村上水軍の後裔を名乗る村上さんが希代の財政危機に挑む決意が伝わってくる。この対談で財政が国の存亡に関わる段階にあるとの認識で完全に一致した。

ただ、ここまで追い込んだ責任の第一が政治家にあると私が考えるのに自民党の要職にある村上さんはやや歯切れが悪かった。

だが政治がこのままで国民に厳しい負担を押し付けられるとは思えない。利権に清廉な村上さんが「身内に甘い」と誤解されないためにも政治の自浄にも取り組んで欲しい。

(山本)

叔父の村上孝太郎（元大蔵事務次官）時代から大蔵省担当として最前線で取材されてきた山本さんと対談させて頂いて、久しぶりに大所高所からの議論ができて非常に嬉しく思いました。

最近特に永田町ではこのような議論がなされなくなって非常に寂しい思いをしています。

文字通り、国会議員こそがこの様な問題に関心を持ち将来の日本のあるべき姿、フレームワークを考えるべきだと思います。マスコミも山本さんのように大所高所から議論し、瑣末なことより骨太の議論と大局的な問題の指摘ができるような、マスコミの後継者の出現を望みたいと思います。一人でも多くの人に財政、経済金融の問題の危機感をもってもらい、明治維新や太平洋戦争直後のように国民が丸となって日本の再生に直ちに取り組みたいと思います。

本日はこのような機会を持って頂いて本当にありがとうございます。(村上)

